

第22回

日本母性看護学会学術集会

プログラム・抄録集



母性を支える看護力 — 叡智を实践へ —

会期

2020年 6月28日(日)

会場

北里大学白金キャンパス
(東京都港区白金5-9-1)

学術
集会長

島袋 香子 北里大学看護学部 教授



第22回 日本母性看護学会学術集会

The 22nd Annual Conference of Japan Society of Maternity Nursing

プログラム・抄録集

メインテーマ

母性を支える看護力 — 叡智を実践へ —

会期

2020年 6月28日

会場

北里大学白金キャンパス
(東京都港区白金5-9-1)

学術
集会長

島袋 香子 北里大学看護学部 教授

第22回日本母性看護学会学術集会事務局

北里大学看護学部
生涯発達看護学(母性看護・助産学)

TEL: 042-778-9361

E-mail: jsmn22@nrs.kitasato-u.ac.jp.

INDEX

学術集会長挨拶	1
日本母性看護学会学術集会一覧	2
インターネット学術集会への参加方法	3
発表演題一覧	10
抄 録	
会 長 講 演	21
教育講演Ⅰ	22
教育講演Ⅱ	23
特 別 講 演	24
特 別 企 画	25
シンポジウム	29
高度実践看護師育成支援委員会主催 企画セミナー	35
教育セミナー	39
一般演題（口演）	43
一般演題（ポスター）	57
査 読 者	75
企画・運営委員／実行委員一覧	76
後援・協賛一覧	77

学術集会長挨拶

第22回日本母性看護学会学術集会開催にあたって

学術集会長 島袋 香子

北里大学看護学部 教授

第22回日本母性看護学会学術集会は、2020年6月28日(日)に北里大学白金キャンパスで開催する予定としておりますが、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっており、直接開催がかなわぬ場合は、Web開催を行ないたいと思います。

メインテーマは、「母性を支える看護力 一叡智を实践へー」といたしました。令和の時代を迎えましたが、母性を取り巻く課題は、益々複雑な様相を示しており、子育てに関わる不幸なニュースが心を重くします。子どもの未来を担うために母性を支える立場にある看護職は、どう対応すべきか、参加者の皆様と叡智を出し合い看護力の発揮について考えたいと思いました。

叡智とは、「物事の深遠な道理をわかるほどの才能や知性であり、その人の持つ知識や経験、聡明な判断力などの意味が含まれている」と説明されています。私たち看護職は懸命に目の前の母子に対応していますが、新たな方向性を導く叡智に気づいていないのかもしれないかもしれません。

本学術集会では、教育講演2題、特別講演1題、シンポジウム等を企画しております。教育講演Ⅰでは、長年、重症心身障害児家族のQOL支援を行ってきた小林保子先生に、これまで支援を行う中で見えてきた現代母親像についてお話頂きます。教育講演Ⅱでは、母子の愛着に重要であるタッチングの科学について山口創先生に最新知見をお話頂きます。特別講演では、小田口浩先生に女性の健康支援に向けた漢方医学の活用についてお話頂きます。シンポジウムでは、シンポジストや会場の皆様と叡智を出し合い、母性を支える看護力についてディスカッションしたいと思います。さらに、高度実践看護師育成支援委員会主催企画、教育セミナーとして、CLOCMip研修となるGDMセミナーを予定しております。多くの一般演題が発表され、そこに提示される叡智を参加者で共有し、実践に活かせる機会となることを願っています。

新型コロナウイルス感染症の流行は、先の見えない状況です。会員の皆様の生涯教育や研究発表の場が提供できるよう尽力したいと思います。

日本母性看護学会学術集会一覧

	テーマ	会 長	所 属	開催日時	場 所
第22回	母性を支える看護力 —叡智を実践へ—	島袋 香子	北里大学看護学部	令和2年 6月28日 web 開催	北里大学白金キャンパス
第21回	マタニティサイクルと ライフサイクルの有機的連続性 ～多様性の尊重が未来を拓く～	大平 光子	広島大学大学院 医系科学研究科	令和元年 6月15日	JMS アステールプラザ 広島市文化交流会館
第20回	ウィメンズヘルスを支える 多職種連携の実践	鈴木 幸子	埼玉県立大学 保健医療福祉学部 看護学科	平成30年 6月23・24日	埼玉県立大学
第19回	ライフサイクルにおける セクシュアリティ支援 ～多様性の意識化と実践～	町浦美智子	武庫川女子大学 看護学部	平成29年 6月11日	武庫川女子大学
第18回	母性看護学教育再考 あらためて考えよう、どう教える?! 母性看護学	松原まなみ	聖マリア学院大学 大学院看護学研究科	平成28年 6月18日	石橋文化センター
第17回	Women's Health Research —新たなジェネレーションを切り拓く—	高橋 眞理	順天堂大学大学院 医療看護研究科	平成27年 6月28日	JA 共済ビル カンファレンスホール
第16回	周産期看護と健やか親子21	遠藤 俊子	京都橘大学 看護学部	平成26年 6月28日	京都橘大学 清香館
第15回	母性看護学の洗練 —家族・父親・夫とともに—	吉沢豊予子	東北大学大学院 医学研究科	平成25年 7月6・7日	東北大学 川内北キャンパス
第14回	母性看護のエビデンスを蓄積する	齋藤いずみ	神戸大学医学部 保健学科	平成24年 6月16日	神戸大学 百年記念館
第13回	周産期のハイリスクケアの構築	成田 伸	自治医科大学 看護学部	平成23年 6月11日	自治医科大学 看護学部
第12回	今、改めて周産期ケアを問う	村本 淳子	三重県立看護大学 看護学部	平成22年 6月19日	三重県立看護大学
第11回	子産み子育て文化の再生と母性看護	森 恵美	千葉大学看護学部	平成21年 6月20日	千葉大学 けやき会館、他
第10回	つながりの輪と絆の中で生命を迎え 育むために	末原紀美代	大阪府立大学 看護学部	平成20年 6月21・22日	大阪大学 中之島センター
第9回	先端医療とウーマンズヘルス	久米美代子	東京女子医科大学 看護学科	平成19年 6月16日	東京女子医科大学 弥生記念講堂
第8回	母性看護の専門性と役割拡大	田邊美智子	福井大学医学部 看護学科	平成18年 6月17・18日	福井県あわら温泉 「清風荘」
第7回	セクシュアリティから母性看護を 問う・見直す	渡部 尚子	埼玉県立大学 看護学科	平成17年 6月19日	埼玉県立大学
第6回	臨床の知に学ぶ —母性看護学の発展に向けて—	小松美穂子	茨城県立医療大学 看護学科	平成16年 6月19・20日	茨城県立医療大学
第5回	【産む】、【産まれる】、【生きる】を 支える看護の役割	岡部 恵子	山梨県立大学 看護学部	平成15年 6月	山梨県立大学
第4回	看護が担うウィメンズヘルス	今関 節子	群馬大学医学部 保健学科	平成14年 6月	群馬大学
第3回	母性看護の国際化と情報化	石井 トク	岩手県立大学 看護学部	平成13年 6月	岩手県立大学
第2回	母性看護領域の専門性をいかに 高めるか	野村 紀子	旭川医科大学 看護学科	平成12年 6月	旭川医科大学
第1回	母性	前原 澄子	三重県立看護大学看護学部	平成11年 6月	三重県立看護大学

インターネット学術集会への参加方法

第22回日本母性看護学会学術集会

①学会 HP トップページ

URL (ホームページアドレス) : <https://bosei22.secand.net/>

The screenshot shows the homepage of the 22nd Annual Conference of Japan Society of Maternity Nursing (JSMN). The page includes a header with the JSMN logo and the title '第22回日本母性看護学会学術集会'. Below the header is a navigation bar with links: HOME, 日程表, 開催概要, プログラム, 演題募集, 参加申込, 参加申込 (二次), 発表者・座長の方へ, 参加者の方へ, 査読者の方へ. The main content area features a large graphic of a woman's face and text detailing the conference dates (2020年6月28日(日) Web開催 (2週間配信); 2020年7月3日(金) ~ 7月16日(木)), venue (北里大学白金キャンパス), and chair (島袋 香子). Two callout boxes point to links: 'インターネット学術集会 (Web開催)' and '教育セミナー (事前登録者のみ)'. A third callout box points to a link for general participants.

インターネット学術集会 (Web開催)

教育セミナー (事前登録者のみ)

一般参加者の方はこちら

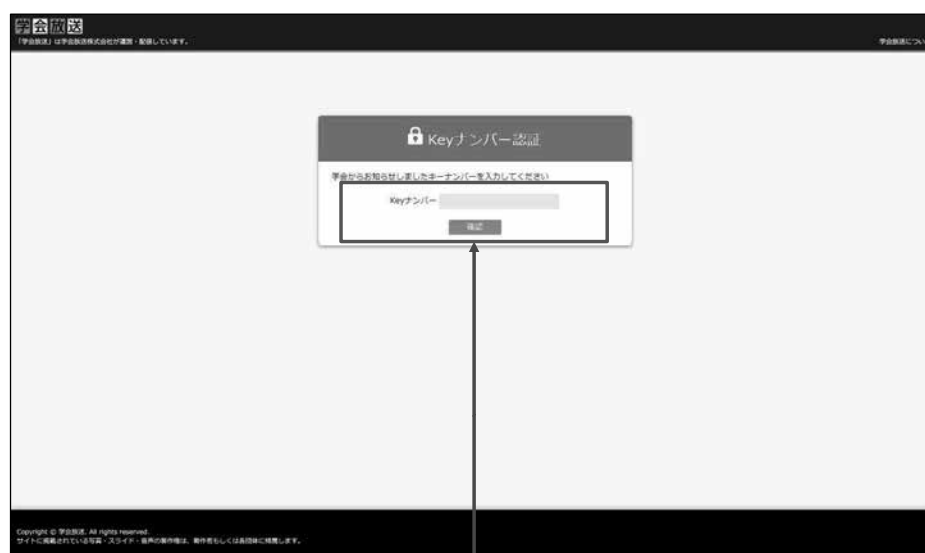
GDM教育セミナー受講 (事前登録者のみ) はこちら

② 視聴前のご確認



視聴環境などをご確認いただき、「視聴を開始する」をクリック

③ キーナンバーの入力 ※キーナンバーは一般と GDM 教育セミナー受講で異なります



キーナンバーを入力して「確認」をクリック

- 一般参加者の方のキーナンバー …… jsmn2020
- GDM教育セミナー受講（事前登録者のみ）の方のキーナンバーは、該当者にメールでお知らせします

④ 新規利用登録とログイン

Copyright © 学会放送. All rights reserved.
サイトに掲載されている写真・スライド・音声の著作権は、著作権もしくは各団体に帰属します。

初めての場合は「新規利用登録」をクリック
→⑤へ

登録済みの場合は、設定した情報を入力して「ログイン」をクリック
→⑧へ

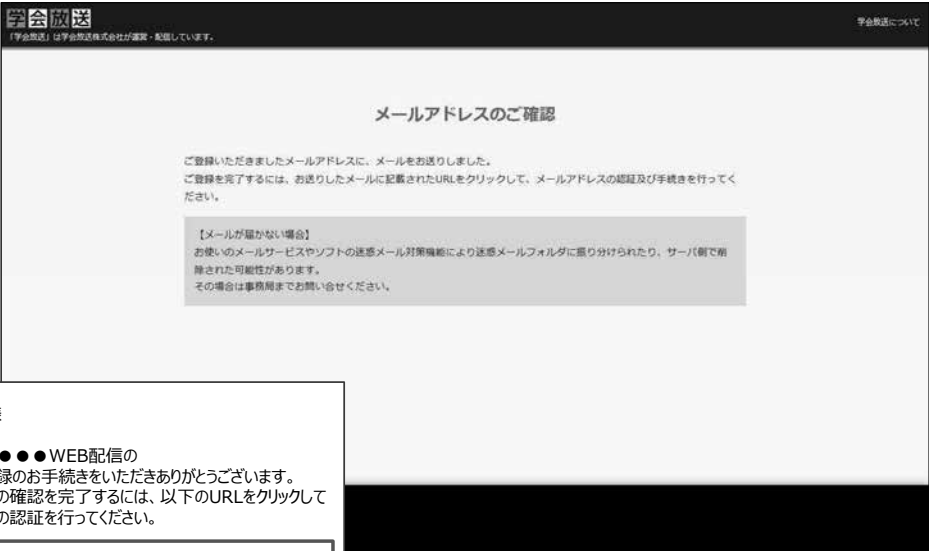
⑤ 利用登録情報の入力

Copyright © 学会放送. All rights reserved.
サイトに掲載されている写真・スライド・音声の著作権は、著作権もしくは各団体に帰属します。

必要情報を入力して「利用登録」をクリック

これは学会期間中、参加証の役割をします。できるだけ、参加受付申込時のメールアドレスで登録ください。
皆さんのログインや視聴履歴から、例えば、セミナーの修了証発行の条件である最後まで動画を視聴したか
等を確認させていただきます。

⑥ メールアドレスの確認



●●●●様

この度は●●●●●WEB配信のWEB参加登録のお手続きをいただきありがとうございます。メールアドレスの確認を完了するには、以下のURLをクリックしてメールアドレスの認証を行ってください。

<https://singlecast.gakkaitv.net/XXXXXX/XXXXX/>

●●●●●事務局
E-mail: xxxxx@xxxx.ac.jp

⑤で設定したメールアドレスに確認メールが届きますので、そのURLにアクセスします

※メールは以下のアドレスで送信されますので、メールソフトの設定などでこのアドレスが迷惑メールに仕分けされないよう、ご注意ください。

no-reply@gakkaitv.net

⑦ 新規利用登録の完了



●●●●様

お客様の情報の本登録が完了致しました。メールアドレス（ログインID）、パスワードは忘れないように保存してください。

講演をご視聴いただくには以下の情報をご利用ください。

「WEB視聴期間 XXXX年X月X日～X日」
=====

WEB視聴用ログインページ
<https://singlecast.gakkaitv.net/XXXX/>

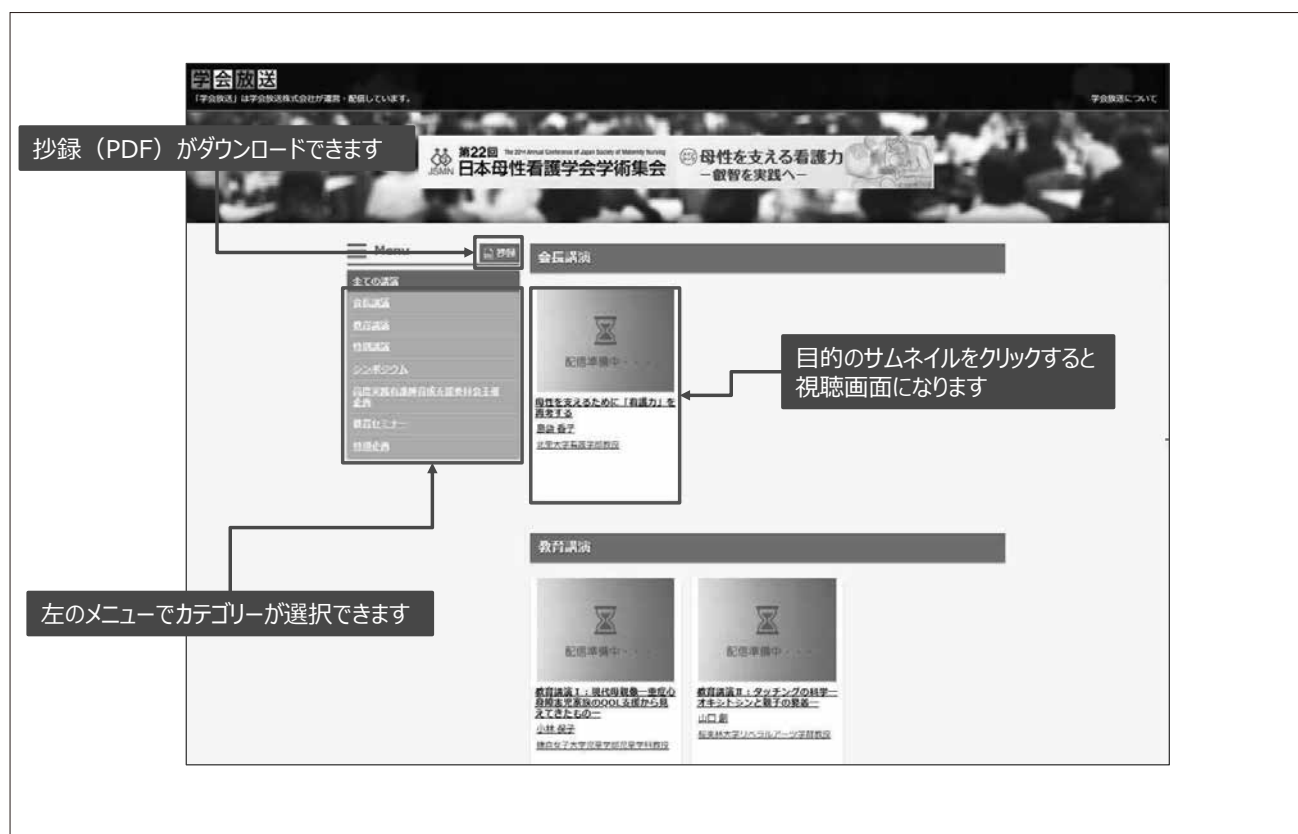
メールアドレス（ログインID）：xxxxxx@xxxx.ac.jp
パスワード：※※※※（登録時に設定いただいたパスワード）
=====

本メールは大切に保管してください。

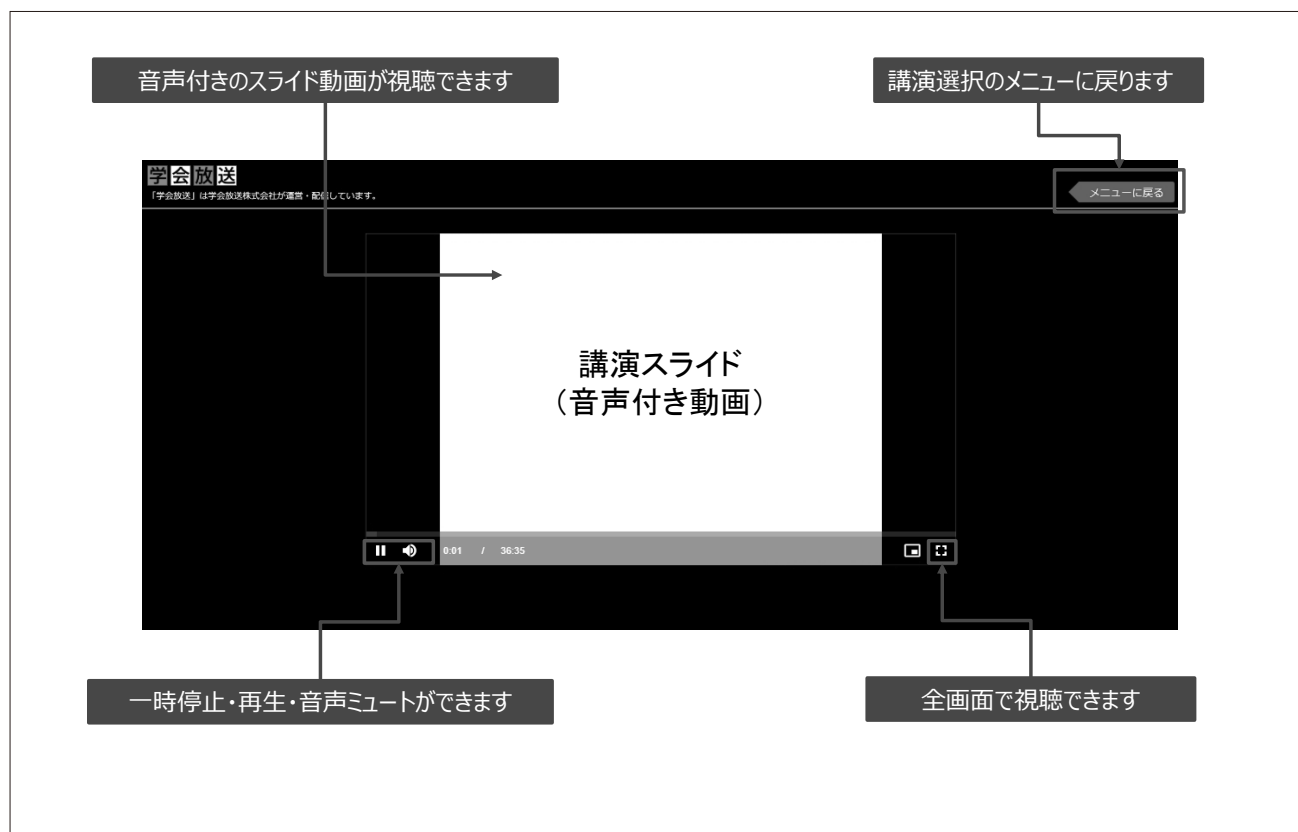
●●●●●事務局
E-mail: xxxxx@xxxx.ac.jp

新規利用登録完了の画面が表示され、改めて、本登録完了のメールが届きますので表示されたページの「ログイン画面に戻る」をクリック

⑧ メニュー画面



⑨ 視聽畫面

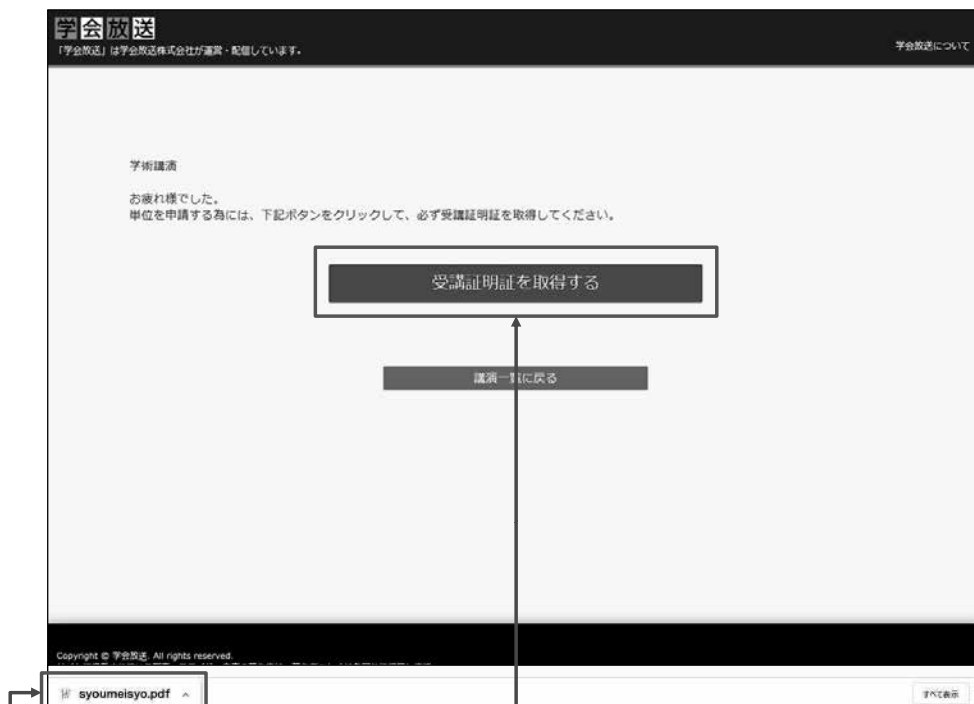


⑩ 証明書が発行される講演について（視聴と取得ボタン）



証明書が発行される講演の場合は、動画の下に取得ボタンが表示されますのでクリック（視聴状況によってボタンの色が変わりますので、ボタンが青色の場合にクリックが可能です）

⑪ 証明書が発行される講演について（証明書：PDF のダウンロード）



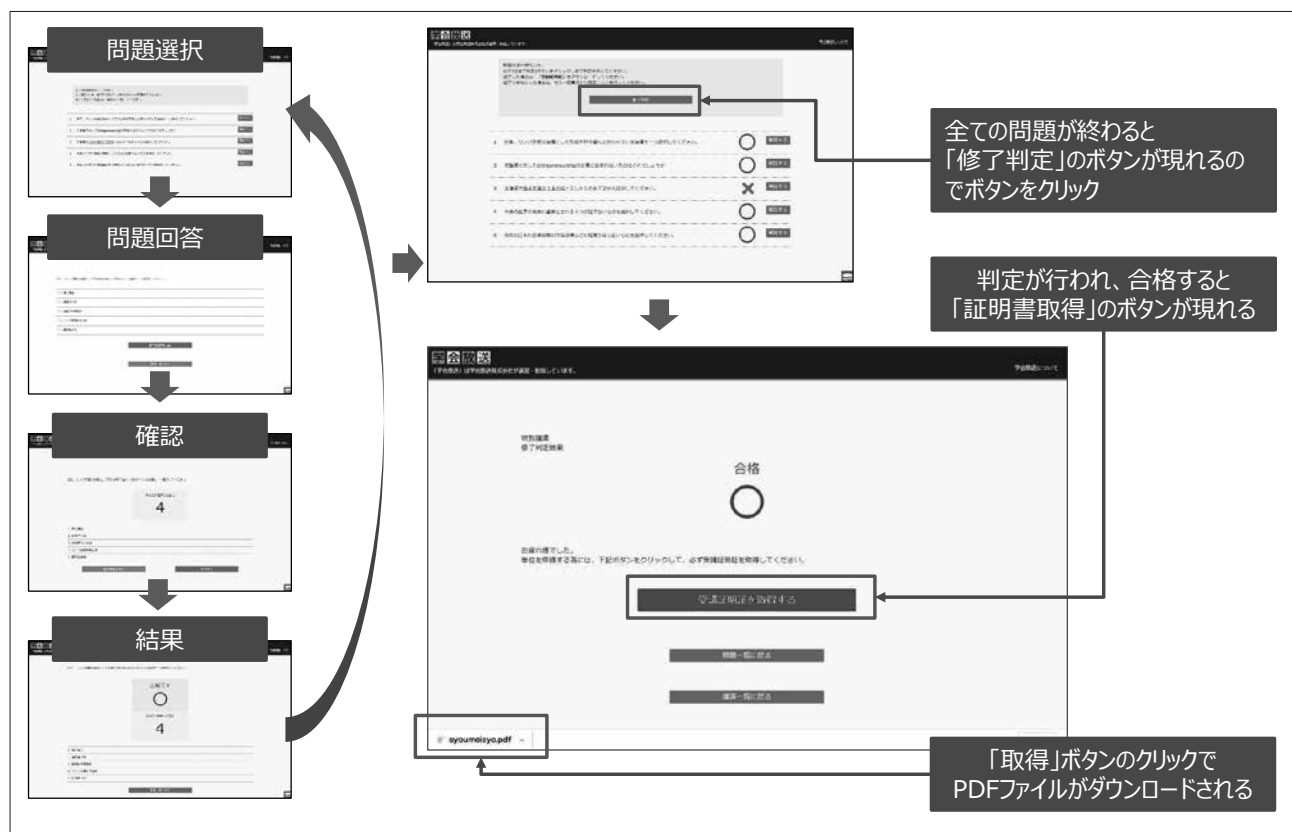
「取得する」のボタンをクリックするとPDFファイルがダウンロードされます（ブラウザによって表示が異なりますが、画面下部にダウンロードファイルが表示されます）

⑫ 試験を受ける場合（視聴と問題へボタン）



試験が受けられる講演の場合は、動画の下に「問題へ」ボタンが表示されます。
（視聴状況によってボタンの色が変わります。青色の場合にクリックが可能です）

⑬ 試験を受ける場合（問題選択⇒ 回答⇒ 終了判定⇒ 証明書のダウンロード）



発表演題一覧（講演・シンポジウム等）

会長講演

母性を支えるために「看護力」を再考する

島袋 香子（第22回日本母性看護学会 学術集会会長、北里大学 看護学部）

教育講演 I

現代母親像

—重症心身障害児家族の QOL 支援から見えてきたもの—

小林 保子（鎌倉女子大学 児童学部 児童学科）

教育講演 II

タッチングの科学

—オキシトシンと親子の愛着—

山口 創（桜美林大学 リベラルアーツ学群）

特別講演

女性の健康支援に漢方医学の力を活用する

小田口 浩（北里大学東洋医学総合研究所）

特別企画

母子の健康と子育てを応援するコミュニティづくり

—北海道大学 COI『食と健康の達人』拠点の目指す社会—

吉野 正則（北海道大学 COI『食と健康の達人』拠点 プロジェクトリーダー／
（株）日立製作所 シニアプロジェクトマネージャー）

玉腰 暁子（北海道大学 COI『食と健康の達人』拠点 研究リーダー／北海道大学 医学研究院 教授）

〔母性を支える看護力 ―叡智を実践へー〕

S-1 若年妊娠とドメスティックバイオレンス
―Midwife で関わることを考える―

立岡 弓子（滋賀医科大学 医学部 看護学科）

S-2 産婦の産む力を支える
―オキシトシンの働きを意識した助産ケア―

大田 康江（順天堂大学 医療看護学部）

S-3 産後ケアの視点
―産後ケアハウスにおける関わりから―

岡本 登美子（ウパウパハウス岡本助産院）

S-4 母親の成育を支援する
―産科病棟・NICU・小児科病棟における看護実践から―

平林 奈苗（北里大学病院 看護部）

高度実践看護師育成支援委員会主催企画セミナー
CLoCMiP[®]ウイメンズヘルスケア研修

お母さんに伝えたい、子宮頸がん予防

長坂 桂子（NTT 東日本関東病院 母性看護専門看護師）

小澤 桂子（NTT 東日本関東病院 がん看護専門看護師）

近藤 一成（NTT 東日本関東病院 産婦人科主任医長）

教育セミナー

【CLoCMiP[®]レベルⅢ認証申請必須研修 フィジカルアセスメント：代謝】

周産期の糖代謝異常の考え方と対応

成田 伸（自治医科大学 看護学部）

発表演題一覧（口演発表）

口演1 [妊娠期・分娩期・産褥期の支援]

O1-1 妊娠前半期の就業妊婦の Quality Of Life —職場におけるサポート・組織風土に焦点をあてて—

○中田 覚子

佐久大学 看護学部 母性看護学分野

O1-2 就労妊婦の生産性とワークエンゲイジメント —雇用形態と妊娠時期による違い—

○中村 康香¹⁾、廣田 光紀²⁾、武石 陽子¹⁾、川尻 舞衣子¹⁾、長坂 桂子³⁾、吉沢 豊予子¹⁾

1) 東北大学大学院 医学系研究科 ウィメンズヘルス・周産期看護学分野、2) 東北公済病院、

3) NTT 東日本関東病院

O1-3 分娩への不安が強い広場恐怖症状がある妊婦への看護実践報告 —精神看護 CNS と母性看護 CNS の協働—

○大瀧 明子、中井 愛

滋賀医科大学医学部附属病院

O1-4 「子どもの個性を共に考えよう産後2週間健診」の効果の検証

○松井 博子¹⁾、上澤 悦子²⁾

1) 京都山城総合医療センター、2) 京都橘大学

O1-5 産後2週間健診における40歳以上の高年初産婦に特化した 助産師の視点と支援内容

○三加 るり子、工藤 里香、西村 香織、松井 弘美

富山県立大学 看護学部 母性看護学講座

O1-6 妊娠糖尿病後女性の産後3か月間における食生活の経験

○森田 由香理、森 恵美

千葉大学大学院看護学研究科 生活創成看護学講座 健康増進看護学教育研究分野
リプロダクティブヘルス看護学

口演2 [母乳育児支援]

O2-1 電動搾乳器使用を希望した NICU 入院児・多胎児の母親への母乳育児支援 — 分泌量と乳房変化に応じたケア実践 —

○豊永 倫子¹⁾、黒石 純子¹⁾、宮島 慧²⁾、川端 房絵²⁾

1) ビジョン株式会社 中央研究所、2) 北里大学病院

O2-2 カンガルーケアがもたらす母乳分泌量の変化

○池田 早弥佳、門田 蓉子

川口市立医療センター

O2-3 日本の父親は母乳育児の支援者となり得るのか — 妊娠中の妻を持つ男性の母乳育児の認識に関する質的研究 —

○北 ありさ¹⁾、森 恵美²⁾、岩田 裕子²⁾、徳田 麻希³⁾

1) エイドセンターグループ 特定非営利活動法人エイドセンター 本町子育て世代包括支援センター、

2) 千葉大学大学院 看護学研究科、3) 社会医療法人愛仁会 高槻病院

O2-4 産後4か月まで母乳育児を継続している母親が認識する夫のサポート

○神垣 早紀

兵庫県立大学大学院 看護学研究科

口演3 [父親への支援]

O3-1 A 病院助産師が行う妊娠期から産後1か月までの子育て支援の現状と課題 — 父親支援に焦点をあてて —

○津田 充子、河野 可奈子、武山 明子

武蔵野赤十字病院

O3-2 ペアレンツクラスを受講する夫の出産立ち会いに関する意識調査

○松浦 祥子¹⁾、川田 雅子¹⁾、山崎 真由¹⁾、中野 美佐枝¹⁾、屋敷 久美²⁾

1) 公益財団法人 聖バルナバ病院、2) 聖バルナバ助産師学院

O3-3 初めて親となる男性の父親役割適応を促す出生前看護介入プログラムの開発

○森田 亜希子

埼玉県立大学

口演4 [セクシュアリティ]

O4-1 患者のセクシュアリティに関する看護実践に伴う障壁及びその障壁を克服した経験

○阿部 清香¹⁾、森 恵美²⁾

1) 千葉大学大学院 看護学研究科 博士後期課程、2) 千葉大学大学院 看護学研究科

O4-2 大学生からみた親の関わりと避妊行動の実態調査

○大島 さちえ、関島 香代子、定方 美恵子

新潟大学 大学院 保健学研究科

O4-3 助産師が行う性教育の発展を考える — 養護教諭の聞き取り調査から見えるもの —

○和田 薫¹⁾²⁾

1) 大阪大学大学院 人間科学研究科、2) 関西医療大学 保健看護学部

口演5 [管理]

O5-1 A 病院の産婦健康診査システムにおいて母性看護専門看護師が果たす役割に関する実践報告

○松浦 和枝、中間 万里代、村上 摂子、高尾 恭子

淀川キリスト教病院

O5-2 超緊急帝王切開術院内コードシステム導入後の助産師と手術室看護師の意識

○足利 大実、猪俣 奈緒子、今泉 純子

一般財団法人 竹田健康財団 竹田総合病院

O5-3 情報通信機器を活用した産科混合病棟の可視化 看護行為の種類と回数による分析

○齋藤 いずみ、大滝 千文

神戸大学大学院 保健学研究科

発表演題一覧（ポスター発表）

ポスター1 [妊娠期の支援]

P1-1 妊婦の日常生活における身体活動の体験

○関 まりか¹⁾、森 恵美²⁾、岩田 裕子²⁾

1) 千葉大学大学院 看護学研究科 博士後期課程、2) 千葉大学大学院 看護学研究科

P1-2 他職種協働で実施した妊婦向け運動教室の心理的効果に関する検討 —チェアバレエ・エクササイズを用いて—

○石井 忍

北里大学 看護学部 生活支援看護学

P1-3 システマティックレビューによる妊娠中に父親を対象とした準備教育の効果

○岡田 麻代、松井 弘美

富山県立大学 看護学部 母性看護学講座

P1-4 周産期メンタルヘルスの悪化を予防するための高度看護実践 —妊娠期から継続する夫が父親になることへの支援—

○小田 郁代

さいたま市立病院

ポスター2 [ハイリスク妊娠への支援]

P2-1 生殖補助医療を受療する場における女性の体験

○西岡 啓子¹⁾、成田 伸²⁾

1) 獨協医科大学 看護学部、2) 自治医科大学 看護学部

P2-2 不育症を経験し出産に至った女性の妊娠期の体験

○井野 さおり¹⁾、成田 伸²⁾

1) 自治医科大学 大学院看護学研究科 元大学院生、2) 自治医科大学 看護学部

P2-3 精神疾患合併妊婦への母性を育むための援助 —多職種連携の有効性—

○柿谷 祥子、小林 麻美、山田 有紀

公益財団法人東京都保健医療公社 荏原病院

P2-4 炎症性腸疾患と共に生きる女性が子どもを産む体験

○上西 由美¹⁾²⁾、大月 恵理子³⁾、鈴木 幸子³⁾

1) 上尾中央看護専門学校、2) 埼玉県立大学大学院 保健医療福祉学研究科 看護学専修 博士前期課程、

3) 埼玉県立大学 看護学科・大学院研究科 母性看護学・助産学分野

ポスター3 [産後・育児期の支援]

P3-1 A病院における産後1ヶ月健診でのエジンバラ産後うつ病質問票及びボンディング評価の実態調査

○青木 まり子、藤原 昌子、島守 洋子

順天堂大学医学部附属浦安病院

P3-2 母親の食事摂取状況と産後1か月の成乳中のグルタミン酸の関連

○中井 抄子¹⁾²⁾、立岡 弓子¹⁾、高橋 眞理²⁾

1) 滋賀医科大学医学部 臨床看護学講座(母性看護学・助産学)、

2) 順天堂大学大学院 医療看護学研究科

P3-3 抱かれる姿勢の違いによる乳児の自律神経活動の変化

○村田 美代子、小林 絵里子、三加 るり子、西村 香織、岡田 麻代、工藤 里香、
松井 弘美

富山県立大学 看護学部

P3-4 乳児をもつ母親を支援する看護職者が抱える困難感と児の泣き・睡眠に関する悩みへの対応

○藤本 薫¹⁾、大田 康江²⁾、川鍋 紗織¹⁾、佐々木 裕子³⁾、高橋 眞理⁴⁾

1) 文京学院大学 保健医療技術学部 看護学科、2) 順天堂大学 医療看護学部、3) 杏林大学 保健学部、

4) 順天堂大学 大学院 医療看護学研究科

P3-5 音楽療法プログラムに参加する保護者間交流の検討—NICU 卒業後のフォローアップにおける意義

○遠藤 栞里¹⁾、香取 洋子²⁾

1) 神奈川県立こども医療センター NICU、2) 北里大学 看護学部

ポスター4 [多職種連携・地域連携]

P4-1 中山間地域の子育て支援 妊娠から出産、育児まで

○百田 由希子、平田 知子

新見公立大学 健康科学部 看護学科 母性看護学

P4-2 有床診療所における助産師の継続的母子支援の実際

○田村 加奈子、中村 若葉

医療法人社団正裕会 井上レディースクリニック

P4-3 離島に住む女性の妊娠～子育て期におけるセルフケアに関する認識と実践

○伊東 美智子、島内 敦子

神戸常盤大学 保健科学部 看護学科

P4-4 地域保健師と共通認識を持ち支援を行うための活動報告

○金 英仙

医療法人竹村医学研究会(財団) 小阪産病院

P4-5 超高齢(45歳以上)妊娠出産と産後における看護職者等による多職種連携の経験

○森 恵美¹⁾、小坂 麻衣¹⁾、前原 邦江¹⁾、齋藤 明香²⁾、岩田 裕子¹⁾、木村 佳代子¹⁾、坂上 明子³⁾、
遠藤 俊子⁴⁾

1) 千葉大学大学院 看護学研究科、2) 群馬大学大学院 保健学研究科、3) 武蔵野大学 看護学部、

4) 関西国際大学 看護学部

P4-6 妊産褥婦への切れ目ない支援を目指して —メンタルヘルスの問題を抱える褥婦のケアを通して考える—

○永井 貴子、白土 早弥加

医療法人社団正裕会 井上レディースクリニック

ポスター5 [ウィメンズヘルス]

P5-1 唾液中ヒトヘルペスウィルスは妊婦の疲労を客観的に評価できるか？ —妊娠期の経時的変化による分析—

○鈴木 紀子¹⁾、藤本 薫²⁾、高橋 有美³⁾、福本 千穂³⁾、五十嵐 理恵³⁾

1) 順天堂大学 医療看護学部、2) 文京学院大学 保健医療技術学部、

3) 社会医療福祉法人聖母会 聖母病院

P5-2 「更年期女性のための睡眠健康プログラム」の効果

○高島 えり子¹⁾、高橋 真理²⁾

1) 順天堂大学 医療看護学部、2) 順天堂大学大学院 医療看護学研究科

P5-3 中高年女性のヘルスリテラシーと更年期症状の頻度に関する横断調査

○島 明子

名古屋大学大学院 医学系研究科 総合保健学専攻

P5-4 良性腫瘍による子宮摘出後の性機能・QOL と関連する要因の検討 —術後4ヶ月経過後のQOLと自由記述の分析から—

○西 佳子¹⁾、島袋 香子²⁾

1) 北里大学大学院 看護学研究科 博士後期課程、2) 北里大学大学院 看護学研究科

ポスター6 [教育（基礎教育）]

P6-1 女性がんサバイバーの妊孕性温存に関する看護学部生の思い —子どもを持つ女性としての語りから—

○那須 明美

山陽学園大学 看護学部 看護学科

P6-2 母性看護領域における臨地実習教育の在り方の検討 —臨床教員による実習指導に関する文献検討—

○香取 洋子

北里大学 看護学部

P6-3 助産所を組み入れた母性看護学実習の教育プログラムの効果

○白木 京子

岐阜聖徳学園大学

P6-4 助産実習の指導場面の想起から考察する —実習指導における課題—

○井上 満美、大谷 晃子

広島大学病院

P6-5 ラオスの看護大学における助産師教育カリキュラム

○沼澤 広子

国際医療福祉大学大学院 助産学分野

ポスター7 [教育（現任教育）]

P7-1 中期中絶を受ける女性へのケアで助産師に生じる葛藤と折り合い

○斎藤 未希¹⁾、大月 恵理子²⁾、兼宗 美幸¹⁾

1) 埼玉県立大学 保健医療福祉学部 看護学科、2) 順天堂大学 大学院医療看護学研究科 医療看護学部

P7-2 分娩期ヒヤリ・ハット事例に基づく経験3年未満の助産師のための 教育プログラムの開発

○川村 紀子¹⁾²⁾、高橋 真理³⁾

1) 千葉県立保健医療大学 健康科学部 看護学科、

2) 元順天堂大学大学院 医療看護学研究科 博士後期課程、3) 順天堂大学大学院 医療看護学研究科

P7-3 褥婦の生活を見据えた看護に対する分娩施設の看護職の認識

○戸崎 紗弥香¹⁾、常盤 洋子²⁾、國清 恭子²⁾、深澤 友子²⁾、齋藤 明香²⁾、鈴木 まなみ²⁾、
工藤 真理子²⁾³⁾

1) 日本赤十字社栃木県支部 足利赤十字病院、2) 群馬大学大学院 保健学研究科、

3) 日本医療科学大学 保健医療学部 看護学科

会 長 講 演

教育講演Ⅰ

教育講演Ⅱ

特 別 講 演

特 別 企 画

母性を支えるために 「看護力」を再考する

島袋 香子

第22回日本母性看護学会 学術集会長
北里大学 看護学部

略 歴

1979年
琉球大学保健学部保健学科 卒業
(保健師・助産師・看護師免許取得)
1993年
北里大学大学院看護学研究科
修士課程 修了
2000年
北里大学大学院博士課程 修了

職 歴

1980年
北里大学病院産科病棟 助産師
1985年
北里看護専門学校 専任教員
1988年
北里大学看護学部 助手,
1994年 講師, 2000年 准教授
2008年
北里大学看護学部 教授
2012年
北里大学看護キャリア開発・研究
センター長
2014年
北里大学看護学部長
北里大学大学院看護学研究科長
現在に至る

著 書

代表森恵美編：母性看護学概論第10
版～13版, 医学書院, 2019年,
看護編交野好子編：看護・介護・福
祉の百科事典(普及版, 朝倉書店,
2012年,

社会活動

日本母性看護学会 理事
日本母性衛生学会 理事
神奈川母性衛生学会 副理事長
日本助産学会 評議員
日本看護科学学会 評議員
日本看護研究学会 評議員
日本看護管理学会評議員
日本私立看護系大学協会 副会長

「あなたはどのような母親になると思いますか？」この質問に対し、「な
てみないとわからない」、「想像できない」と、回答する妊婦さんが増えたよ
うに思ったところから、今回の学術集会のテーマが生まれました。

この質問は、妊娠後期の妊婦を対象にした調査における出来事です。「な
てみないとわからない」とは実に素直な表現だと思いますが、いろいろな意
味合いを含んでいることが推測されます。情報過多の時代、「いろいろ想像し
てもしょうがない」、「なるようにしかならない」という回答は、ちらっと想
像してみたが…を前置きにした表現だと思うので、インタビューをすすめてい
くと、妊婦さん達が自分の母親像を想像はしていることがわかります。「想像
できない」の回答も、大半は想像しているがうまく表現できず、そのような
回答になっています。しかし中には、「想像できない」から進めない妊婦が含
まれており、「想像できない」のか「想像しない」のか、心の奥底に問題を抱
えていることが推察されます。

妊娠期は、母親役割を想像して胎児を認識しはじめる心理・社会的な予期的
段階であるとされています。マーサーは、母親となることの過程として、

- ①妊娠期に妊娠に専念し、胎児へ関心や愛着を育み母親となる準備をする。
- ②産後2～6週間で身体回復をしつつ、兄の合図と世話を学ぶ。
- ③産後4ヶ月で兄の世話への自信を高める。
- ④産後4ヶ月以降母親としての自己を確立する。

4つの段階を示しました。しかし、現代社会の女性は、妊娠に専念して妊娠
期を過ごすことが難しい状況にあります。仕事や生活の調整、高齢妊娠による
自分の身体状況の調整等、多くの課題に対応しなければなりません。心の奥底
に葛藤も潜んでいます。妊娠期に準備不足のまま、分娩や産後の現実に対応す
るのは大変なことだと思います。

一方、母性看護を専門とする看護職は、高速回転の時間軸の中で業務をこな
しており、日頃のケアが女性の母親となる過程の支援に繋がっているのか、疑
問が持たれます。

母親となる過程を支援するためには、女性に心を開いてもらう関係性の構築
が必要です。そのためには、忙しく雑多な業務の中における瞬時の人間関係形
成のスキルが必要とされますが、どうあればそれができるのか、考えたいと思
います。

現代母親像 —重症心身障害児家族の QOL 支援から見えてきたもの—

小林 保子

鎌倉女子大学 児童学部 児童学科

略 歴

重症心身障害児、医療的ケア児など、特別なニーズのある子どもの発達や家族支援、家族 QOL 支援を研究。大学では特別支援教育及び障害児保育・療育などの授業を担当し、特別支援学校教諭や保育者の養成に携わっている。自身が医療的ケアを要する重症児の親として子育ての中で経験してきたことを活かし、医療的ケア等を要する重症児と家族を支援するワークショップの実践や個別相談、医療型児童発達支援センターでのムーブメント療育指導及び NPO 法人の運営に携わっている。

現鎌倉女子大学 大学院児童学研究科・児童学部児童学科 教授／博士（教育学）

著 書

「ヘレンハウス物語 ―世界で初めてのこどもホスピス―」 クリエイティブかもがわ

「子どもの育ち合いを支えるインクルーシブ保育 ―新しい時代の障がい児保育―」 大学図書出版

「保育・療育・特別支援教育に生かすムーブメント教育・療法 ―MEPA-R 活用事例集―」 日本文化科学社

「保育者のための障害児療育 ―理論と実践を学ぶ―」 学術出版会
他

近年、医療技術の進歩による救急救命率や周産期医療の向上により、かつて救えなかった小さな命が救えるようになった。その一方で、重症心身障害児や常時医療的ケアを要したりする子どもが年々増加傾向にあるのも事実である。子どもと家族は NICU で医療と看護の手厚いサポートを受けた後、経管栄養や人工呼吸器等の医療ニーズを抱えたまま在宅生活に入ることとなる。本来、病院を退院し、家族と一緒に生活できることは喜ばしいことであろう。しかし、時間をおかず、描いていた家族生活とはかけ離れた現実直面する家族は少なくない。中でも母親は、職場復帰が困難となり、養育者、介護者並びに看護者としての役割をこなしながら、家事やきょうだい児の育児等を担わざるを得ない状況にある。濃厚な医療を要する子どものケアにおいて、母親は心身が休まる時間がない。通院以外の外出もままならず、母子は地域で孤立しかねない状況にある。母親の QOL ははかり知れない。

地域で暮らす子どもと家族の支援に向けて、小児在宅医療と福祉・教育・行政機関との連携による支援体制の整備が大きく動き出したのはここ 5、6 年のことである。障害児・発達障害者支援施策において、重症心身障害児や医療的ケア児が利用できるサービスの創設・拡充、保育・療育・教育における支援体制の整備が図られてきた。2019 年度には「医療的ケア児等総合支援事業」として、従来の関連事業を組み替えて、医療的ケア児とその家族の地域生活を支えるための総合的な支援の促進を目的とした事業が創設され、医療、福祉、教育等の関係機関をつなぐ等の役割を担う「医療的ケア児等コーディネーター」の養成・配置や医療的ケア児等とその家族への支援を含む 5 項目が掲げられたところである。

これまでは医療機関と訪問看護をよりどころに母親を中心に家族で支えてきた生活であったが、地域サービスの活用に門戸が開かれたことで、本来家族が担わなくてもよいケアの軽減につながったのは確かである。しかしサービスが増えればよいというわけではない。むしろ大事なことはこれからであり、支援の本質に目をむける必要がある。ケアを要する子どもの状況や家族の在り方、生活の在り方等は個々に異なる。主たるケアと養育の担い手である母親の心情の理解と寄り添いを含め、家族メンバー一人ひとりが抱えている課題に目を向け、個々の QOL はもとより、家族全体の QOL「家族 QOL」の向上をめざした支援がめざす姿である。地域の中で、ニーズを要する子どもがその子らしく育ち、家族がより健康で幸福感のある QOL の高い生活が享受できるようになるためには、ライフステージにおける切れ目のない支援の実現が不可欠である。今まさに、切れ目をなくす具体的な方法の見直しをはじめ、家族 QOL に視点を置いた PDCA による個別の家族支援計画の作成やアセスメント方法などを検討、実践していく時期に来ている。

一般演題

(口 演)

01-1

妊娠前半期の就業妊婦の

Quality Of Life

—職場におけるサポート・組織風土に
焦点をあてて—

○中田 覚子

佐久大学 看護学部 母性看護学分野

【目的】妊娠前半期の就業妊婦の Quality Of Life を職場におけるサポートおよび職場の組織風土の視点から明らかにすることである。

【方法】4施設の産科外来にて妊娠前半期の妊婦（流産徴候のある者は除外）を対象に、WHO/QOL-26、小牧（1994）の職場におけるソーシャルサポート、福井ら（2004）の組織風土尺度12項目版を問う無記名自記式質問紙調査を実施した。職場のサポート高低群（平均値を境に2群に区分）におけるQOL得点比較として *Mann-Whitney U test*、組織風土区分（パラバラ型・イキイキ型・イヤイヤ型・シブシブ型の4群）におけるQOL得点比較として *Kruskal Wallis Test*、*Bonferroni Test* を実施した。本研究は佐久大学看護学部研究倫理委員会の承認を得て実施した（第2018012号）。

【結果】有効回答384名（有効回答率56.8%）のうち就業妊婦255名を本研究の分析対象とした。上司のサポート低群は高群と比べ、QOL得点（ $p<0.05$ ）、QOL領域得点の社会的関係（ $p<0.001$ ）、環境領域（ $p<0.05$ ）が有意に低かった。先輩のサポート低群は高群と比べ、QOL領域得点の社会的関係（ $p<0.001$ ）が有意に低かった。同僚のサポート低群は高群と比べ、QOL得点（ $p<0.01$ ）、QOL領域得点の社会的関係（ $p<0.001$ ）、環境領域（ $p<0.05$ ）が有意に低かった。組織風土区分における得点比較では、QOL領域得点の社会的関係で有意差が示され（ $p<0.01$ ）、イヤイヤ型がイキイキ型と比べ有意に低かった（ $p<0.01$ ）。

【考察】先行研究において、身近な人から満足な支援が得られれば妊婦のQOLは良好であることが報告されている。本研究において、上司・先輩・同僚のサポート高低群によりQOLに差が示されたことは、1日の大半を職場で過ごす就業妊婦にとって、職場の従業員も身近な存在であることを意味していると考えられる。職場の組織風土のイヤイヤ型は、強制的・命令的な雰囲気かつ合理的な組織管理もなされておらず、従業員のモラルが最も低い風土とされている。イヤイヤ型のQOLが低いことが示されたことから、職場の組織管理を行う管理職や従業員に対するアプローチの必要性が示唆された。

【結論】妊娠前半期の就労妊婦のQOLは職場のサポートや職場の組織風土により差があることが明らかとなった。

01-2

就労妊婦の生産性と

ワークエンゲイジメント

—雇用形態と妊娠時期による違い—

○中村 康香¹⁾、廣田 光紀²⁾、武石 陽子¹⁾、
川尻 舞衣子¹⁾、長坂 桂子³⁾、吉沢 豊予子¹⁾

1) 東北大学大学院 医学系研究科 ウィメンズヘルス・周産期看護学分野

2) 東北公済病院

3) NTT 東日本関東病院

【緒言】我が国では労働力確保のため女性の労働力が期待されている一方、第1子出産を契機に退職する女性も約5割弱存在する。企業側の労働力確保のためにも、女性が妊娠期においても自身の労働力を最大限に発揮できるような支援が必要である。そこで本研究の目的は、妊婦の雇用形態や妊娠時期といったことが企業に及ぼす生産性やワークエンゲイジメントについて明らかにすることとした。

【方法】就労妊婦600名を対象に、Webによる調査を2019年4-5月に行った。調査項目は生産性として労働遂行能力の低下率を測定する Work Limitations Questionnaire-Short Form（以下WLQ）（Lerner, 1998）、過去4週間の欠勤日数、ワークエンゲイジメントとして Utrecht Work Engagement Scale 短縮版（以下UWES）（島津, 2008）及び就労状況と属性である。本研究は所属機関の倫理審査委員会の承認を得て行った。

【結果】妊娠初期90名、妊娠中期212名、妊娠末期148名、うち正規雇用233名、非正規雇用217名の合計450名の就労妊婦を分析対象とした。妊娠時期別に比較した結果、WLQの「時間管理」「集中力・対人関係」「生産性損失割合」に関する妊娠初期の得点が、妊娠中期よりも有意に高かった。UWESでは妊娠末期で「熟意」得点が妊娠中期よりも有意に高かった。雇用形態別に比較した結果、正規雇用妊婦がWLQの「仕事の結果」に関する得点が有意に高く、UWESにおいては非正規雇用妊婦のほうが「活力」得点について有意に高いことが示された。過去4週間の欠勤日数については妊娠時期や雇用形態による有意な差は認められなかった。

【考察】妊娠時期に伴う身体的、精神的変化や、雇用形態による時間の有効活用など、妊婦特有の症状や労働環境によって生産性に影響を与える可能性が示唆された。

【結論】妊娠初期や非正規雇用は生産性が低く、妊娠末期や非正規雇用はワークエンゲイジメントが高いという特徴を踏まえた支援が重要である。

本研究は公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団、および一般財団法人ヘルス・サイエンス・センターの研究助成をうけて実施しました。また本研究にご協力いただきました埼玉県立大学の津野陽子氏、NPO 妊婦のくらし、仙台赤十字病院の東山明紗香氏に感謝します。

01-3

分娩への不安が強い広場恐怖症状がある妊婦への看護実践報告
—精神看護 CNS と母性看護 CNS の協働—

○大瀧 明子、中井 愛

滋賀医科大学医学部附属病院

【緒言】広場恐怖はパニック障害に伴うことが多く、慢性化の様相を呈し治療が難しい。A 施設ではこれまで、産婦が分娩時に不穏になり、指示が通じない事態に直面し、対応に病棟助産師が戸惑うことが多い。今回、精神・母性看護専門看護師（以下、CNS）が協働し、支援した広場恐怖のある妊婦へのケア内容を後方視的に検討した。倫理的配慮として、個人が特定されないように匿名化し、所属施設の承認を得た。

【実践内容】

事例：B 氏 初産婦 パニック障害 広場恐怖あり 向精神科薬内服。集団での分娩教育受講後、分娩への否定的発言、閉鎖的空間への恐怖、集団教育への負担の訴えがあった。

1. 精神看護 CNS の介入

B 氏は、面談の度に流涙した。妊娠初期は漠然とした発作への予期不安であったが、妊娠中期以降、1 人で過ごせなくなるほど出産への現実不安が増強し、「泣くと楽になる」と表出した。B 氏の流涙は「漠然とした不安」から「自分の弱さを出す」ことに変化しており、不安への対処行動であり、流涙について見守り、B 氏の出産への現実不安へのケアが喫緊の課題であると捉え、母性看護 CNS と連携した。

2. 母性看護 CNS の介入

B 氏に分娩に向けたケアを行うことは分娩の不安への直面化に繋がるが、必要で回避できないと考えた。精神看護 CNS の提言から、B 氏の流涙の意味を理解して関わることにより、支援者が必要以上に情緒的に反応せず、B 氏の抱える広場恐怖や分娩への不安に向き合い、複数の対応策を共に考え、B 氏の現実不安の軽減、分娩に臨む覚悟を促した。

【結果】CNS の協働により、広場恐怖症状を持つ妊婦の苦手な環境を調整し、不安に向き合うことを支えた。分娩時ケアが安全に提供できるよう、上記を病棟スタッフへ周知し、混乱を起こさず分娩ケアが提供出来た。

【考察】流涙という現象を不安の増強と捉えるのではなく、B 氏の楽になる対処行動として捉えた。B 氏には理解力があり、妊娠後期には流涙する場面を自ら選択する行動がとれ、自己抑制が可能であった。よって、現実不安への対処方法を具体化することで、症状の悪化を回避出来たと考える。今後は外来スタッフが広場恐怖を理解し、分娩準備の環境調整が出来ることが課題である。

01-4

「子どもの個性を共に考えよう
産後2週間健診」の効果の検証

○松井 博子¹⁾、上澤 悦子²⁾

1) 京都山城総合医療センター

2) 京都橘大学

【目的】産後2週間健診時に母親だからこそわかる子どもの個性を共に考え、産後の感情に共感するメンタルヘルスへの介入を焦点とした独自の健診の効果を検証する。

【方法】産後2週間健診未実施の産科施設において書面で研究参加の同意を得た33名の母子の健康診査時に子どもの個性に関する半構造的インタビューと産後の感情を傾聴した。EPDS 等の3つの質問票と子どもの個性の理解度をVASで得点化し、退院時、2週間時、1か月時の3時点で評価した。

本研究は、京都橘大学及び研究協力施設の倫理審査会の承認を得て（承認番号：18-14、2018年6月6日）実施した。研究対象者には研究の趣旨、任意性の保証、個人情報の保持等について口頭及び書面で同意を得た。

【結果】子どもの個性の理解度 VAS 平均点は、2週間時 5.55 から1か月時に 6.69 と有意に高まり ($p=.00$)、特に初産婦群が有意に変化した ($p=.029$)。EPDS 平均値は経時的に有意に低下した。赤ちゃんへの否定的な気持ち平均点は、2週間後に有意に低下した ($p=.038$)。子どもの個性の理解度 VAS と EPDS、赤ちゃんへの否定的な気持ち得点は有意な負の相関関係があった ($p=.00$)。

産後2週間健診での子どもの個性は「空腹と満腹の合図がある」「睡眠と覚醒のタイミングがある」等の6つのカテゴリーに集約され、1か月では「子どもの合図やリズムがわかってきた」に変化した。一方「どんな子かわからない」と回答した母親は1か月で継続した家族関係の問題や身体回復の遅れがあった。2週間時の感情表出の結果、1か月時は「悩みを相談できた安心感」「聴いてもらったことでの気持ちの変化」「更に援助を望む」であった。

【考察】産後2週間健診で子どもの個性を母親と共に考えていく過程は、育児中の母親を承認し肯定する機会となっていた。その結果、わが子特有の個性を「合図やタイミングがある」から「わかってきた」と変わり、子どもの個性の気づきが母親の気持ちに余裕を与え育児ストレスを軽減し、産後の抑うつ気分の悪化を予防することにつながっていた。

【結論】子どもの個性を母親と共に考える産後2週間健診は、EPDS を低下させ育児困難感を軽減させる効果が示唆された。

査読者

本学会の一般演題は、次の方々に査読をしていただきました。
心より感謝申し上げます。

跡上 富美	新井 陽子	石井 邦子	岩田 裕子	遠藤 恵子
遠藤 俊子	大月 恵理子	大平 光子	香取 洋子	上澤 悦子
杵淵 恵美子	工藤 美子	河野 洋子	小林 康江	坂上 明子
佐々木 綾子	佐々木 くみ子	定方 美恵子	島袋 香子	鈴木 幸子
田辺 けい子	常盤 洋子	中嶋 有加里	中村 康香	成田 伸
林 はるみ	林 ひろみ	福島 裕子	藤本 薫	前原 邦江
町浦 美智子	村井 佐智子	吉沢 豊予子		

(五十音順・敬称略)

企画・運営委員／実行委員一覧

学術集会 会長 島袋 香子 北里大学看護学部

【企画・実行委員】

委員長	島袋 香子	北里大学看護学部
事務局長	香取 洋子	北里大学看護学部
	新井 陽子	北里大学看護学部
	及川 美穂	北里大学看護学部
	菅野 さやか	北里大学病院
	桑原 さやか	北里大学看護学部
	佐々木 佑	昭和大学病院
	西 佳子	北里大学大学院
	増山 利華	松蔭大学看護学部
	村井 佐知子	北里大学看護学部
	和智 志げみ	北里大学看護学部

【実行委員】

青島 恵美子	東邦大学看護学部
大田 康江	順天堂大学医療看護学部
折井 純子	茅ヶ崎市立病院
小川 喜美子	北里大学病院
小川 朋子	聖母病院
杵淵 恵美子	駒沢女子大学看護学部
坂井 望	水戸済生会総合病院
杉 有希	相模原協同病院
鈴木 紀子	順天堂大学医療看護学部
鈴木 美恵子	山梨県立中央病院
田辺 けい子	神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部
長南 記志子	北里大学メディカルセンター
日置 智華子	国立看護大学校
藤本 薫	文京学院大学保健医療学部
堀金 幸栄	国際医療福祉大学保健医療学部
若狭 晶子	北里大学病院

（五十音順・敬称略）

後援・協賛一覧

本学術集会を開催するに当たりまして、以下の企業・団体の皆様から
ご支援・ご協力を頂きました。心より感謝申し上げます。

後 援

公益社団法人 神奈川県看護協会

公益社団法人 神奈川県助産師会

神奈川母性衛生学会

書籍販売

株式会社 日総研出版

広 告

医歯薬出版株式会社

株式会社 医学書院

株式会社 エムシーピー

株式会社 ナチュラルサイエンス

株式会社 日本看護協会出版会

ピジョン株式会社

寄 附

アトムメディカル株式会社

ハーゼスト株式会社

第22回日本母性看護学会学術集会 プログラム・抄録集

学術集会長：島袋 香子

事務局：北里大学看護学部（母性看護・助産学）

〒252-0329 神奈川県相模原市南区北里2丁目1-1

担当：香取 洋子

TEL：042-778-9361

E-mail：jsmn22@nrs.kitasato-u.ac.jp

学術集会 HP URL：https://bosei22.secand.net/index.html

出版：株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

<https://secand.jp/>



第22回日本母性看護学会学術集会事務局

北里大学看護学部
生涯発達看護学（母性看護・助産学）

TEL: 042-778-9361

E-mail: jsmn22@nrs.kitasato-u.ac.jp.